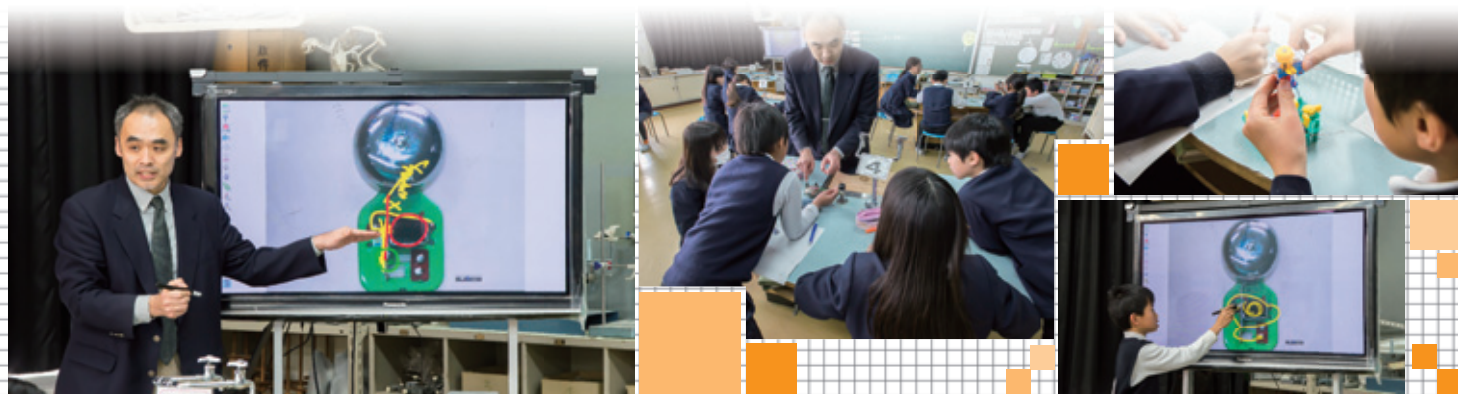


導入事例
てれたっち

子どもたちから「もっと学びたい」と声があがる理科の授業。 「わかる楽しさ」が意欲につながり理解を深めます。



和歌山県の橋本市立紀見小学校では、理科室に「てれたっち」を導入し、児童の興味喚起や実験補助などの目的で大いに活用されています。同校で3～6年生の理科を担当されている黒崎育男先生、また橋本市教育委員会事務局学校教育課・川原一真主任指導主事に、「てれたっち」の活用法や導入効果について伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

※ディスプレイは別売りです。

言葉で説明したら時間のかかるものも、目で見れば瞬時に理解できる

黒崎先生は理科の専科を担当されていますが、「てれたっち」を使ってどのような授業をされているのでしょうか。

黒崎先生：導入部分の興味喚起から実験まで、幅広く活用しています。応用の授業でも、「てれたっち」を使うと理解が深まります。児童にはタッチペンを渡して思い思いに気付いたことを書かせていますが、「てれたっち」が言葉による説明を補ってくれるので、心理的なハードルが下がっていますね。発表することにより学んだ内容をしっかり確認でき、記憶の定着につながっています。

従来の、先生のお話を全員で聞き、板書をノートに書き写すスタイルの授業に加えて、新しい教え方が定着しつつありますね。

黒崎先生：板書は児童にとっては教員から「与えられるもの」ですので、頼らせすぎないようにして、自身で考える力を養いたいです。「てれたっち」を使って説明したり、発表したりしながら、「ノートは自分で書いてみよう」と促すと、なかなか多彩なノートが上がってきますよ。それを書画カメラで写して共有することも行っています。皆、「もっと発表したい」「早く先に進みたい」と、次の授業の時間を楽しみにしているんですよ。児童が自分の言葉で説明できるようになっているということは、内容を理解しているということなんです。子どもたちの顔を見れば、皆が「わかってうれしい」「楽しい」と感じているのが伝わってきますし、こちらも「今までやってなかったことにもチャレンジしてみよう」という気になります。以前は難しすぎるから割愛していた部分も、「てれたっち」があると教えることができますね。

「てれたっち」が実験助手に。評価やアドバイスに使える時間ができました

実験時の「てれたっち」の学習効果について教えてください。

黒崎先生：以前は、実験手順の書かれたプリントを配ったりしていましたが、今は事前に手順の動画を撮影しています。実験中は「てれたっち」で動画を繰り返し再生していますので、途中でわからなくなった児童は自主的に見に来て、納得すると席に戻り、実験を続けています。おかげで基本的な内容に関する質問は一切なくなりました。従来は口頭などで手順の説明を繰り返すだけで時間が足りなくなり、実験助手が欲しいと思っていたほどです。「てれたっち」の導入後は、1人でゆとりを持って対応できるようになり、安全に実験を行っているか、上手に器具を扱っているかなど、評価にまで手が回るようになりました。

授業実践のご紹介 てれたっちでの書画カメラの活用



①ペルの模型を書画カメラでTVに投影します。



②グループに分かれ、実物を見ながら仕組みを考えます。



③グループごとに討議した結果を発表し、先生が講評します。



④各グループに実験用のペルを配布。配線方法を記録し連続再生しておきます。

学校に導入するICT機器には、誰にでも扱えるわかりやすさが大切

「てれたっち」の操作感についてはいかがでしょうか。

黒崎先生：専用のソフトウェアを使うサービスやICT機器は扱いが難しい印象がありますが、「てれたっち」はパソコンとほとんど変わらない使い勝手の製品ですから、敷居の低さを感じます。独自の操作性を持つソフトウェアだと、操作を憶えることがハードルになってしまい、活用が進みませんよね。

川原指導主事：最近は様々な機能を搭載した製品が提供されているようですね。使いこなせればメリットも大きいですが、中には操作が独特で複雑なものもある印象です。現場の教員が尻込みをしてしまうと活用は進みませんので、学校に導入するICT機器にはわかりやすさが大切でしょうね。パソコンと同じ操作性を持つ「てれたっち」は、どの先生にも取っつきやすく、使いやすいことを評価しています。

取材にご協力いただいた先生



橋本市教育委員会事務局 学校教育課
川原 一真 主任指導主事



橋本市立紀見小学校
黒崎 育男 先生

CLIENT DATA



導入学校 / 橋本市立紀見小学校
所在地 / 和歌山県橋本市
設立 / 1905年